建物と敷地の利用状況が街路景観に及ぼす影響の一考察－宮島・町家通りを事例として－

広島工業大学　　正会員　　○伊藤　雅

１．はじめに

2021 年 8 月に廿日市市宮島町が重要伝統的建造物群保存地区（以下、「重伝建」と記述する）に選定され，宮島町家の残るまちなみの保全が進められている．このうち宮島東町地区にある町家通りは，観光客が多く訪れる海岸通りや表参道商店街とは違い，住宅用途の宮島町家が多く立ち並ぶとともに，自動車が通行可能な生活道路として利用されている通りとなっている．筆者らはこれまでに，町家通りを通行する歩行者や自動車の通行量を計測し，歩行者と自動車の混在の問題を把握してきた．他方，重伝建の選定を受けてまちなみの保全を進めていくにあたっては，街路空間のデザインを考慮したうえで宮島町家と調和する街路景観を整えていく必要がある．しかしながら，自動車が通行する通りとなっていることから，自動車の通行に支障がある町家建築物の一部分が切り取られたり（軒切り），空き地が駐車場に利用されるなど，街路景観に支障を及ぼす現象が発生している．本研究では，宮島・町家通りを対象に，官民境界線を基準として，建物の有無や建築物のでっぱり／ひっこみの状況を計測することによって，街路景観に及ぼす影響の検討のための基礎データの作成を行った．

２．計測方法

今回は宮島町家通りの海側に立地する建物または敷地 52 件について，間口および建築物のでっぱり／ひっこみを図１に示す方法で簡易的に計測した．でっぱり／ひっこみの計測位置は，地面レベル，１階レベル（庇のある高さ），2 階レベル（軒のある高さ）としてた．なお，空き地あるいは駐車場として利用されている敷地については，便宜上 5.0mのひっこみとみなした．

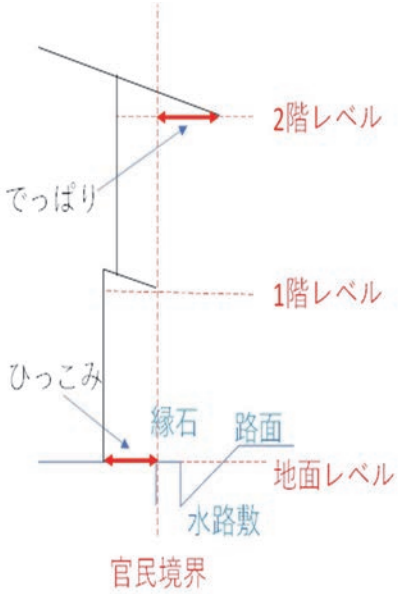


図１　でっぱり／ひっこみの事例写真と模式図

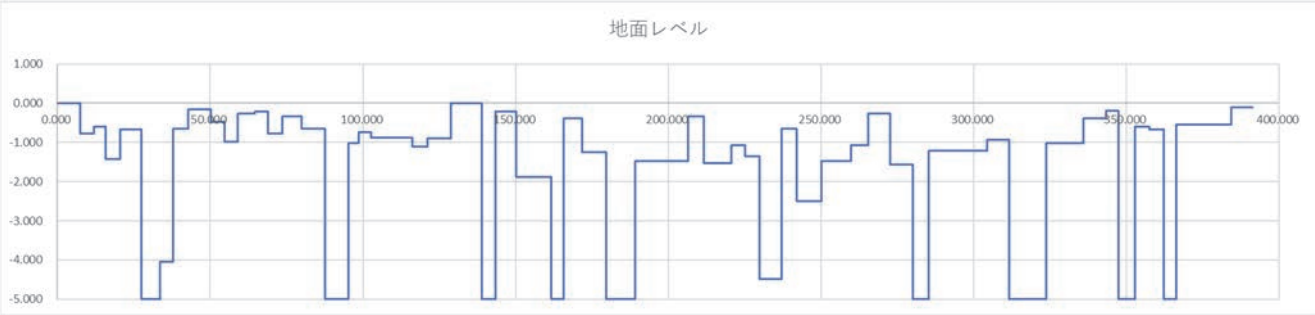
３．計測結果

図 2 に各レベルのでっぱり／ひっこみの計測結果を示す．横軸は，町家通りの北端を原点として南端の 391 mまでの区間を示し，縦軸は，でっぱりを正の値，ひっこみを負の値で示している．

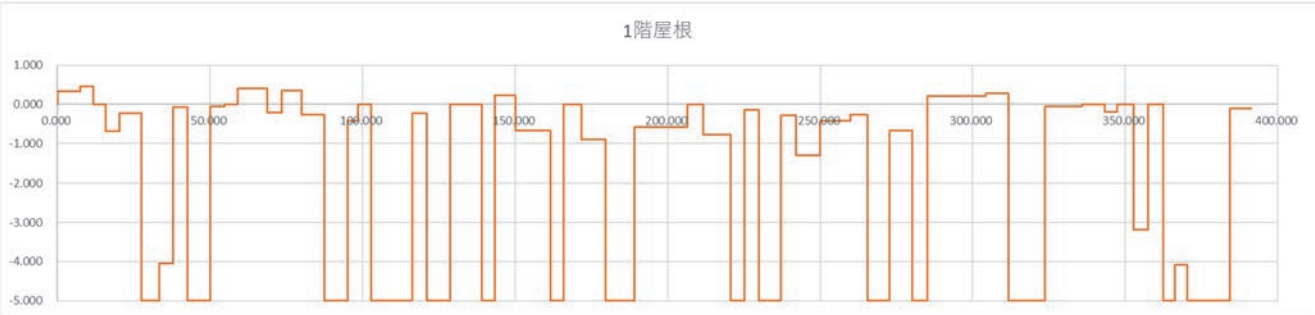
地面レベルにおいては，平均値が-1.585mと空き地や駐車場利用によるひっこみの影響が表れた形となっている．1 階レベルでは，１階の庇や軒がはみ出しているケースがいくつかあり，最大で 0.453mのでっはりとなっていた．平均値では，-1.715mとなり，塀の奥に建物が建っているなどの影響により，地面レベルよりも後退していた．2 階レベルでも，軒のはみ出しがいくつかあり，最大で 0.514mのでっぱりとなっていた．平均値では，2 階の無い建物があるためさらに後退し，-2.274mとなった．

キーワード　街路景観，重伝建，宮島，町家通り

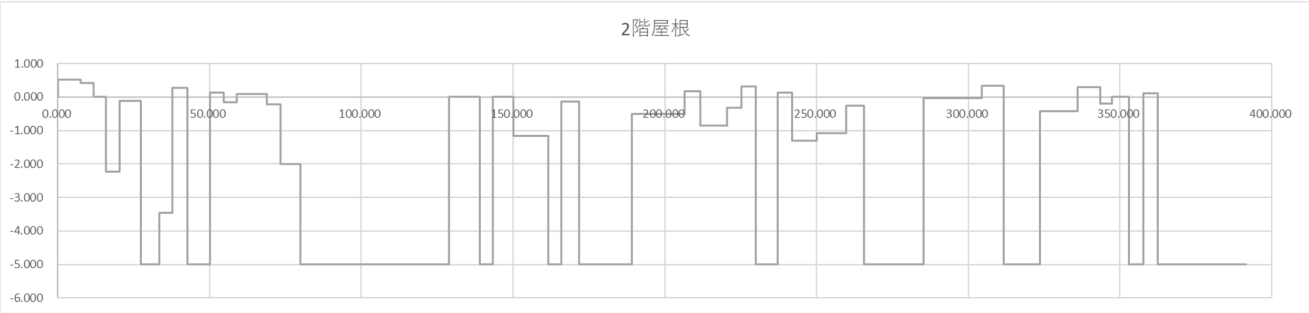
連絡先　〒731-5193　広島市佐伯区三宅 2-1-1　広島工業大学 工学部環境土木工学科
E-mail: t.itoh.sn@cc.it-hiroshima.ac.jp



地面レベル：最大値：0.000m　最小値：－5.000m　平均値：－1.585m



1 階レベル：最大値：0.453m　最小値：－5.000m　平均値：－1.715m



2 階レベル：最大値：0.514m　最小値：－5.000m　平均値：－2.274m

図 2　でっぱり／ひっこみの計測結果（宮島・町家通り［海側］）

4．考察と今後の展開

街路景観を検討するための基礎データとして，今回は宮島・町家通りを対象とした官民境界線からの建造物のでっぱり／ひっこみの実態の簡易計測を行った．他の地区でも同様の計測をサンプル抽出により行っており（表1），例えば，竹原・まちなみ保存地区は宮島・町家通りと比べて建物が連担し，空き地が少ないことからでっぱり／ひっこみの平均値が小さな値となっている．このように，でっぱり／ひっこみの計測を行うことにより，空き地の有無により建物ラインが整っているかどうかや，連担する建物の庇のライン，軒のラインが整っているかどうかを評価する基礎データとして活用できる可能性があり，今後は計測地区を増やして街路景観の評価につなげていきたい．

表 1　でっぱり／ひっこみ平均値の他地区比較

単位：m	町家通り（海側）	竹原まちなみ保存地区	五日市西国街道	可部石州街道
地面レベル	-1.585	-0.949	-1.753	-2.055
1 階レベル	-1.715	-0.163	-1.406	-1.266
2 階レベル	-2.274	-0.871	-3.050	-2.116
全体	-1.858	-0.661	-2.070	-1.812

参考文献

1）　岩﨑秀俊・清田成毅・伊藤雅，「宮島東町地区における歩行者流動の実態と歩車分離の可能性の検討」，第60 回土木計画学研究発表会，講演番号 23-03，2019 年 12 月 2 日．